

核兵器と私たちの明日

ウクライナ危機が問いかけるもの

杉浦久恵

ウクライナで戦争が始まった。テレビや新聞は連日戦争を報じている。普段はニュースをあまり見ない私だけどそのニュースに釘付けになった。映像を前にしてそれが現実に起きていく事だとうまく認識が出来なかった。毎日多くの人が殺されているという事が信じられなかった。

私自身大嫌いな人を殺したいとおもったことはある。だけど実際に殺したりはしない。殺したいとおもうことと実際に殺してしまうことの間には途方もない距離がある。だから、今回の戦争で人が殺したり、殺されたりしていることは、私が大嫌いな人を殺したいとおもうこととは全然別物だ。個人的な接点が全くない人同士がなぜ殺しあわないといけないのか。そこに国という概念が登場する。国を守るため。国とは何か？人あってこそその国じゃないのか？

人が命を賭けて守らなければならぬ国というものがあるのか？

戦争においては、単なる記号として、ロシア人はウクライナ人を殺さなければならぬというある意味ゲームの様な感覚で捉えられている。ニュースの中で死者の数が発表される時にも人が記号として、感情を持たない存在として扱われているように感じた。死が数として数えられた時、その死からは、死んだ人の顔も名前もその他ありとあらゆる個別のアイデンティティが剥奪される。そして、そういう扱い方に違和感を感じないとすれば、それは自分自身がその考えに服従させられていて、もし仮に自身が同様の扱いを受けた時に異議を唱えられないのではないのか。戦争する両国の人々だけでなく、戦争を見ている周りの国々の人々にも非人間的な感覚が広がっていく。そういうことが今回の戦争で一番怖いと感じた。

そもそも何故ロシアがウクライナに戦争を仕掛けたのか。私の調べによると、ロシアが国

際社会の中で孤立を深めていることが背景にある。

今回ウクライナがNATOに加盟しようとしたことに対してロシアは異議を唱えた。

NATOの結成時の目的はソ連を中心とする共産圏に対抗するための西側陣営の多国間軍事同盟である。ウクライナは地理的にも精神的にも元々ロシアに近い国である。そのウクライナがNATOに加盟することはつまり、ロシアではなくアメリカの側に付くということを意味する。

ロシアとウクライナを比較すればロシアが大國で経済的にも巨大であり、弱者であるウクライナをいじめているようにも見える。しかし視野を広げて考えると、アメリカとヨーロッパに比べるとロシアこそが弱者にも見える。そんな中、追い討ちをかけるようにどんどん仲間が減り孤立の道を辿っている。今回のロシアの侵攻はウクライナとの関係においてはロシアに完全に非があるとしても、ロシアをそんな立場

に追い込んだアメリカやヨーロッパの国々に責任は無いのか？

演劇はギリシャ以来、人類が長い時間をかけて産み育ててきたものである。その演劇はコミュニケーションに関する知見を持っている。デイスコミュニケーションの原因をコミュニケーションの主体の内面の課題に帰するのではなく、コミュニケーションが行われる環境からの影響を考えること。よりよりコミュニケーションが生まれる環境をどのようにデザインするか？を考えるという方法。こういうアプローチの仕方に私は強く惹かれる。

今回の戦争について、国際社会がロシアを戦争するしかない所まで追い込んだのは何故か？他に方法はなかったのか？と考えることができるれば、今回の戦争を防ぐために事前に各国が何をすれば良かったのか？を各国で考えることが出来る。自分達がロシアとどういうコミュニケーションをしてきたのか？そのコミュニケーションを改善することだって出来る。

今後、ロシアを責めるの一点張りで世論が誘導されると、ロシアはますます孤立を深める。そして、二進も三進もいかなかった末に核兵器を使うという破れかぶれの行動に出ざるをえないという最悪のシナリオも透けて見える。

井上ひさしは「父と暮らせば」という広島原爆を扱った戯曲のまえがきで、「広島原爆は人類に落とされた。」と言い切った。私もそう考えなければいけないとおもう。広島人、日本人だけでなく世界の人がその意味を問うことが必要だとおもう。そしてそれは今回のロシアの戦争も同様だろう。

ロシアの立場に立てば、アメリカは近年、アフガニスタン、イラクと戦争に戦争をしかけ攻撃した。しかし、そのアメリカの暴挙は今回のロシアほどには責められなかった。日本がアメリカの鼻根だからという事情も往々にしてある。世界をアメリカが牛耳っているということもある。

公平に裁きが行われえないという状況で世界

の平和は守られるか？強いものが弱いものをいじめることに対してNOを言わなければいけない。今回の戦争についてロシアにNOと
言うならばこれまでのアメリカの戦争についてもアメリカにNOを言わなければいけなかった。そうでなければ弱いものいじめを正当化することになってしまう。

今の世界の状況を見ていると私たちは未来を考へることが出来ない。広島や長崎の例を考へるまでもなく、核兵器は一瞬で先の未来を消してしまふ。世界の国々が軍事力や経済力の大小に関わらず公平に裁かれること。それは国際連合の仕事かもしれないが、今回の戦争に対する対応を見ているとまだまだ心もとない。未来を夢見る前にまずは明日を。一日一日、日々起こっていることに対して自分で判断して違ふと思つたことに対しては反対の声を上げていくこと。小さいことのようにだけれど、自分の目の前のことが大きな戦争とも繋がっているような気がしている。